

がん免疫療法最前線

人工抗原提示細胞の開発と臨床試験

米国におけるトランスレーショナルリサーチ

ダナーファーバー癌研究所、ハーバード大学 准教授

平野 直人

司会：大阪大学大学院医学系研究科機能診断科学
教授 杉山治夫

2009.07.06(月) 18:00-19:00

大阪大学医学部講義棟A講堂



遺伝子操作により最適化したヒト人工抗原提示細胞 (artificial APC) を用いると、メモリー表現型を有する、抗原特異的ヒト CD8 T 細胞を誘導し、支持細胞なしに in vitro で長期間にわたって培養することが可能である。我々は、current GMP 条件下で artificial APC を作成し、RAC meeting, FDA, IRB による審査を成功裏に終えた。現在、この clinical grade aAPC を用いて ex vivo で培養した腫瘍抗原特異的 CD8 T 細胞による、悪性黒色腫に対する養子免疫細胞療法の臨床試験を行っている。Senior investigator として直接関わっているトランスレーショナルリサーチを例に取り、米国で基礎研究の成果を実際にどう臨床試験にトランスレーションしたかを、研究、規制、経費等の面から多角的に紹介する。

主催：大阪大学大学院医学系研究科 癌ワクチン療法学

共催：文部科学省橋渡し研究支援推進プログラム

大阪大学「TR実践のための戦略的高機能拠点整備」

後援：大阪大学医学部附属病院未来医療センター

大阪大学「未来医療交流会」

お問い合わせ：癌ワクチン療法学講座 坪井昭博

Tel:06-6879-3676, Fax:06-6879-3677

E-mail: office-wt1@cit.med.osaka-u.ac.jp